

様式第 10

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
神奈川県 鎌倉市	鎌倉市	平成 27 年度～令和 2 年度	平成 27 年度～令和 2 年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成24年度)	目 標 (令和3年度) A	実 績 (令和3年度) B	実績 /目標	
排出量	事業系 総排出量	t	t	%	
	1 事業所当たりの排出量	t	t	%	
	生活系 総排出量	48,797t	43,425t	43,744t	94.5%
	1 事業所当たりの排出量	kg/人	kg/人	kg/人	%
合 計 事業系生活系総排出量合計	67,503t	59,504t	t	%	
再生利用量	直接資源化量	8,857t	8,845t	7,587t	-16.7%
	総資源化量	32,497t	31,785t	30,966t	81.1%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	MWh	
最終処分量	埋立最終処分量	t	t	t	%

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成24年度)	目 標 (令和3年度) A	実 績 (令和3年度) B	実績 /目標
総人口	174,162	170,815	177,022	—
公共下水道	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	89.76%	91.63%	91.48%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
未処理人口	汚水衛生未処理人口			%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

○生活系排出量

令和3年度実績値は、目標値 43,425 t を 319 t 上回る 43,744 t となり、目標を達成することができなかった。

要因としては、市民の理解と協力により家庭系ごみの有料化を実施し、ごみの減量につながったものの、人口推計値より減少幅が小さかったこと、分別の徹底及び食品ロス削減方策が十分でなかったこと、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響があるものと考えられる。

○再生利用量

令和3年度実績値は、目標値 53.4% を下回る 52.4% となり、目標を達成することができなかった。

要因としては、引き続きごみの資源化を推進し、当該計画期間中には製品プラスチックの資源化を開始し、資源化率は 50% を超えているものの、ごみの減量・資源化が計画通りに進まなかったことが考えられる。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 令和7年度まで

○生活系排出量

市民の協力が得られるよう、引き続き、分別の徹底及び発生抑制の推進について普及啓発を図っていく。

○再生利用量

ごみの減量に向けた分別の徹底及び発生抑制の推進について普及啓発を図るとともに、家庭系可燃ごみの約半分を占める生ごみや、排出量が増加傾向にある紙おむつ、事業系可燃ごみの新たな資源化方策の実施に向けて、引き続き、具体的な検討を進める。

(都道府県知事の所見)

(ごみ処理)

排出量のうち生活系については、総排出量が目標を達成することができなかったものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響がある中で、現状値（平成24年度）からは着実に減少し、目標値に近い値となっている。また、事業系については、排出事業者への指導等が功を奏し、排出抑制が推進されたと考える。引き続き、分別の徹底及び発生抑制の推進により、排出量の減少を図りたい。

資源の再生利用については、目標達成には至っていないが、排出量に対する資源化の割合が増加し、50%を超えるなど着実に進んでおり、今後ごみの排出量削減とともに、生ごみや紙おむつ等の新たな資源化方策の具体的な検討も含め、更なる資源化の推進を図りたい。